

雪がた

— 豊科病院だより —

豊科病院広報誌

平成20年12月1日 発行

発行者 豊科病院広報文化委員会
〒399-8205

長野県安曇野市豊科5777-1

URL <http://shironishi.or.jp/>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。

平成20年10月20日、当院3階デイルームにおいて、吉田朝雄さんが絵画の作品展を昨年に引き続き開催されました。

吉田さんは、高校1年生の時に腎臓の病気である『ネフロリゼ症候群』を患い、若い時代を2年間病院で過ごすこと、23歳の頃から精神科の病気を発症



吉田朝雄展 開催

し、精神科病院にて約20年間入退院を繰り返す生活を送られました。その精神科病院（当院）へ入院中、院内での作業療法に参加された際、障害がありながら創作をする星野富弘氏の本（詩画集）を読んだことで、その作品に感動され、これを機に詩と絵画を独学で本格的に始められました。

吉田さんは「障害者にならなければ普通のサラリーマンだったかもしれない。病気のおかげで、心が安らぐ自分の芸術の世界を見つげることが出来た。自身の中から自然と湧き出てくる『心の中の風景』を、何かにこだわることなくそのまま描く。よって、どこまでも内容は広がって行き、そこ（現在）に留まることなく、絵も変化していく。描き始めるとポンポン想像が浮かび上がるため、色も迷うことは無い。その点は恵まれて

いる。風景画は一切描かない。「と、意欲的に作品の説明をされました。

当日は入院・通院患者さんや職員など、多くの方々がお集まりをされ、吉田さんの作品に見入りました。当院は、安曇野を拠点に活動されている吉田さんを今後も応援し、機会があれば再び作品展を開催していただきたいと思っています。

吉田 朝雄氏 プロフィール

昭和18年生・65歳
【創作歴】 約20年
【専門】 アクリル画
【作品数】 約300点
【創作状況】
50号サイズの作品もこれまで10点ほど創作。絵画は独学であり、自宅のアリエが創作の場。

あづみ野祭り 4年ぶりの参加!



7月26日に『第29回あづみ野祭り(主催:あづみ野祭り実行委員会)』が開催されました。

この祭りは、安曇野市豊科地域で行われ、メインイベントでは、午後6時30分から、JR豊科駅前の国道147号線を中心に

『あづみ野ばやし踊り』という踊りが繰り広げられます。踊りに参加する連は、地元自治会・小学校のクラス・企業等で構成され、今年は46連の約3千人が参加しました。
当院の職員は、あづみ野ばやし踊りに『豊科病院・安曇野メディア合同連』として、4年ぶりに参加。そして、踊り連コンテストでは、久々の参加にもかかわらず、敢闘賞をいただくことができました。

炊き出し訓練

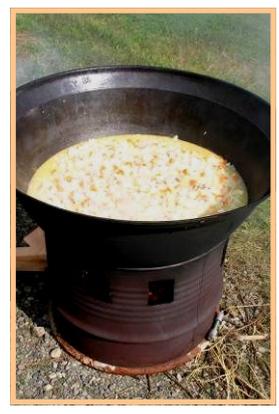
豊科病院では、地震等の災害時に、電気やガスなどのライフラインが途絶えたら・・・という事態を想定し、平成17年から毎年炊き出し訓練を行っています。

今年は年10月9日に、当院の全ての食事を担当している食事療養部の厨房が壊滅状態、という大災害を想定し訓練を行いました。



ました。
実はこの食事療養部の厨房、当日は床の全面改装工事のために、丸一日使用出来ない状態になって

いたのです。よって、機能としては正に壊滅状態だったと言えます。そのような状況の中、食事療養部の栄養士と調理師が中心となり、屋外にて薪で火をたき、巨大な鍋を2つ使って、入院患者さん全員分(約140人分)のご飯とカレーを作りました。



断水した時のことも想定していますので、大量なお米もペットボトルの水を何本も使用し研

ぎ、炊きます。このペットボトルの水ですが、本来は当院に災害時に保存してあるものです。

しかし、消費期限が過ぎてしまつと無論使用することは出来なくなつてしまいます。そこで、消費期限が過ぎる前に、訓練によつて大量に使用し、ペットボトルの入れ替えを行う、という『ECO』と『訓練』の一石二鳥の取組みなのです。

出来上がったカレーとご飯は、仮設の食事療養部となつた作業療法室に運び込まれ、ここでも、災害時の容器を使用し盛り付けられました。担当した調理師からは、「釜が無いので、カレーに比べて、ご飯を炊く方が難しい。」との声もあり、この感想一つとつても、訓練の大切さを感じます。



安曇野市一斉清掃



安曇野市では、「安曇野市一斉清掃」という環境美化活動が年2回行われます。参加者は、住民の皆さんをはじめ各種団体や事業所も含まれ、当院もこの美化活動に毎回参加しています。

今年度2回目の「安曇野市一斉清掃」は、11月9日(日)に

行われましたが、当院は職員勤務の都合上、前々日の11月7日(金)に実施いたしました。

当院の職員は、豊科病院から田沢街道を東へ(近代美術館方面へ)進む1班と、豊科病院から北へ(豊科北中学校方面へ)進む2班に分かれ、沿道のゴミや空き缶を拾い、草刈り、U字溝の清掃等を行いました。清掃できる範囲は限られてしまいましたが、市街地にもかかわらず、沢山のゴミや空き缶が回収され、その量の多さに一同驚かされました。

安曇野が、その景観とともに『いつまでも美しい街』であるよう、今後も自主的に清掃活動が続けていきたいと思つています。



グループホーム・ケアホーム 〜合同小旅行〜

10月20日、グループホーム・ケアホーム第1飛鳥荘と第2飛鳥荘は、乗鞍高原へ秋の合同小旅行へ行きました。

この旅行は、各荘に入居されているメンバーさんが幹事となり、企画・運営されたものです。当日は晴天で、そして紅葉の時期もドンピシャリ。広葉樹の多い乗鞍高原は、眼に飛び込む景色の全てが鮮やかに色づき、絶好の紅葉日和となりました。

乗鞍高原に入ると、まずは『番所大滝』を散策。落差40mという大きさに加え、水量が非常に多く、「こんな立派な滝が県内にあつたのか!」と、皆驚きました。この滝は観光スポットとして、皆様にもおすすめですが、駐車場から展望台ま

◇番所大滝を望む◇



での通路が急坂ですので、運動不足の方は、息も絶え絶えになること必至です（ご注意ください）。

昼食は、『休暇村乗鞍高原』という宿で、乗鞍岳と木々を眺めながらコース料理を味わいました。その料理は食べきれないほどの量で、更に温泉入浴付きでもあり、価格も大変リーズナブル（要予約）。こちらもおすすめです。乗鞍高原を散策した後には、旧安曇村沢渡にて『足湯』に浸かり、帰路につきました。

普段生活する安曇野とは違った自然を体感し、久々の遠出ということもあり、充実した一日となりました。



外来 医師担当表

平成20年 12月現在

曜日	月	火	水	木	金	土
精神科	中澤 知遠 医師	西里 吉昭 医師	五味洸 満徳 医師	五味洸 満徳 医師 or 中澤 知遠 医師	中澤 知遠 医師	五味洸 満徳 医師
内科	信州大学 第一内科 医師	芳賀 敬介 医師	休 診	芳賀 敬介 医師	芳賀 敬介 医師	芳賀 敬介 医師

◎ 受付時間 午前 8:00～午前 12:00

◎ 診療時間 午前 9:00～終了まで

※ 午後は全科**休診**となります。

※ 日祝祭日は全科**休診**となります。

※ 精神科木曜日の担当医は、週ごとに変更となります。

10月より内科外来診療日が変更となりました。

※ご不明な点等は、受付へご確認下さい。
お問い合わせ 電話 0263-72-8400



～・ 編集後記 ・～

豊科病院広報誌「雪がた」第11号をお届けしました。お読みになっていかがでしたか？
前号から今号発行までの期間が長く空いてしまった事をお詫び致します。

今年も早いもので、残すところわずかとなりました。そして新しい年を迎えます。ところで子供達がお正月にもらうお年玉のお年玉袋（ポチ袋）の語源をご存知ですか？この「ポチ袋」は関西方言で「心づけ、祝儀」を意味し、もっばら舞妓さんに渡していた祝儀袋の事だったそうです。「ポチ」には「小さな（これっぽっち）」という意味があり「少ないですが」という謙虚な気持ちで渡した事が始まりだそうです。

※表題「雪がた」について 春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。

また、表題の写真は当院屋上から撮影しました。